

分校だより

卒業式特別号

終わりにやない
さよならは言わない
つないでいた
歩き出す頃に
僕ら 風の向こうへ

仰げば青空
はじまりにいるんだ
ほどこいて
今
旅立つ



最後のHR、最後の集合写真



3年間ありがとう



新たな旅立ち 第43期卒業生

●三月三日(火)、授賞式・卒業証書授与式を行いました。二日から臨時休校となることから準備も慌ただしく行われました。この度の対応で縮小された式典でしたが、太田分校ではできるだけ今までもどおり卒業生を送り出したいと準備をしました。式典後、卒業生が笑顔で校舎をあとにする姿を見て「無事に卒業式をやる事ができて良かった」という安堵した思いでした。

思いを胸に、新しい世界へ!



1年生



2年生



色合いを考えて



祝詞・祝電を教室に掲示



式典準備
28(金)は在校生
2(月)は職員で
準備をしました。

今年がうまく咲いた

式典に参加できない在校生からも素敵なメッセージ



news!

皆さんが
お祝いに



玄関もきれいに飾り付け



お花の先生からも
卒業生へプレゼント



満開のサクラ
見せたかった〜



黒板に卒業生へのメッセージ



ステージ前の花の搬入



卒業証書授与式
秋田県立大曲農業高等学校太田分校



開式の言葉

授賞式



感謝の気持ち



いつもの登校
賑やかな昼食

今日と忘れない日



良き友との出会い



決

地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
(TEL) 0187(88)1311
(FAX) 0187(86)9035

「校長式辞」

風の薫りに春の訪れを感じるこの佳き日、卒業式を迎えられたことに喜びを感じます。ただいま卒業証書を授与した二十名の皆さん、御卒業おめでとうございます。

昨年の五月に元号が平成から令和へと変わり、皆さんは今和の最初、令和元年度の卒業生となります。その記念すべき卒業式ですが、新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、保護者、在校生、来賓のいない卒業式となってしまうことになりました。これまでの記録を見てもこのような卒業式は過去になかったと思われまふ。しかし、この場にはいませぬが、ここに来られなかつた人たちの皆さんを祝福する気持ちは、より一層強くなつていふことと思ひます。

ところで人が話をするとき、必ずテーマがあります。ではこの式辞のテーマは、それは「感謝」です。皆さんが先輩や後輩たちと過ごした日々が、太田分校を鮮やかに彩つてくれたことに感謝したいと思ひます。これまで過ごしてきた時々を振り返ると、春の全校田植え競技、運動会、ホームルーム対抗、はち切れそうな皆さんの笑顔が思い出されまふ。毎年百人を超える地域の方たちが参加してくれるグラウンドゴルフ大会、今年も土砂降りの雨の中、平然とプレーするお年寄りのエネルギーに驚きつつも、皆さんが夢中で運営する姿に感動しました。そして地域の恒例行事となつていふ紅葉祭と全校民謡発表会。これらに加えて、分校レストランなどの地域と連携した活動が認められて、「元氣なふるさと秋田づくり」の表彰を受けることができました。また部活動では、郷土芸能部が秋田県高校郷土芸能・日本音楽合同発表会で特別賞受賞という快挙を成し遂げました。

今年の夏は記録的な猛暑でした。そのなかで、皆さんは暑さに負けず、農業実習や各種イベントの協力などで頑張つてくれました。その夏に忘れられない出来事がありました。野球部の甲子園予選です。人数が足りず本校から部員を借りての出場でしたが、何と対戦相手がバクネットの真ん中でホツとしていました。

この太田分校の日々は、皆さん自身を成長させたただけではなく、私たち教職員や地域を元氣にしてくれました。皆さんに心から「ありがとう」の気持ちを伝えたいと思ひます。皆さんは、これから分校を巣立ち、これまでに身に付けた力を発揮することになります。不安もあると思ひますが、自信をもって新しいことにチャレンジしていきつてください。「very wall is a door every wall」全ての壁、すなわち困難は、is a door、扉である。困難を乗り越えた先には新しい世界が開けます。頑張つてください。

結びに、これまで君たちを慈しみ育てて来られたご家族、また見守り協力してくれた地域の方々にも心より感謝申し上げるとともに、君たちのさらなる飛躍を願ひ式辞と致します。

令和二年三月三日
秋田県立大曲農業高等学校太田分校 校長 小林吉則



卒業証書授与式



校長先生から一人ひとりに卒業証書が渡されました



【送辞】

草木もようやく長い冬の眠りから覚め、生命の息吹が感じられる季節となりました。本日卒業される皆さん、おめでとございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方との思い出を振り返ってみると、いつも私たちの背中を優しく押してくださっていたことに改めて気づきます。二年前、私たちが入学したあの日、不安な気持ちでいっぱいだった私たちが、先輩方は暖かく迎えてくださいました。そのおかげで気持ちも楽になり、不安が期待に変わったことを思い出します。先輩方は、いつも私たちの模範となって導いてくださいました。

委員会活動や部活動、紙風船作りやグラウンド・ゴルフ大会などの行事。様々な活動において先輩方がリーダーシップを発揮し、楽しく活気のある活動にしてくださいました。そのおかげで、私たちは思い出に残る、充実した日々を送ることができました。特に紅葉祭と前日祭は、先輩方との一番の思い出と言えるでしょう。生徒会を始め、率先して考え、行動する皆さんの企画力や運営力を目の当たりにし、私たちもこのようになりたいと心の底で憧れていました。

紅葉祭は見事大成功で幕を閉じ、新たな思い出を刻むことができました。数々の行事を通して、団結力・企画力・実行力の三つを先輩方の姿勢から学ばせていただきました。常に私たち後輩の先頭に立ち、お手本となってくださった先輩方の背中、私たちにかけがえのないものを残してくださいました。

先輩方が築いてくれたものはあまりにも大きく、超えることはなかなかできそうにありませんが、いつか自分たちがそれを成し遂げたいと強く思いながらこれから過ごして参ります。

先輩方が卒業なさった後の人気がない教室。それを見ることになると思うと寂しく、心細くなりません。先輩方は、三年間の高校生活にピリオドを打ち、新たな生活を迎えられると思います。それぞれの道は違っても、この太田分校で共に人生の一期を過ごしたことで、お互い強い絆で結ばれていることだと思います。私たちが在校生も、先輩方の築いた太田分校の伝統を守り、受け継ぎ、後輩の見本となるよう精一杯精進します。

いよいよ、お別れの時が参りました。最後になりますが、先輩方のご健康と益々のご活躍を心から祈りし、送辞とさせていただきます。

令和二年三月三日

在校生代表 鈴木 夕奈



【答辞】

寒さもようやく和らぎ始め、春の訪れが実感できる今日この頃。本日は、私たち卒業生の為にこのような素晴らしい式を挙げていただき、誠にありがとうございます。卒業生を代表し、心よりお礼申し上げます。三年前の四月、桜吹雪が舞う中、着慣れない制服に身を包み、太田分校の正門をくぐったあの日を昨日のように覚えております。期待に胸を躍らせながら私たちの高校生活は始まりました。

みんなが迎える八時半の教室。響き渡る笑い声。楽しかった日々がよみがえってきます。一年生の頃は、すべてが初めての経験で、先輩方に助けってもらってばかりでした。二年生になると学校生活にも慣れ、部活動や委員会活動、学校行事などで一人一人が活躍する機会が増えてきました。その中でも印象に残っているのが修学旅行です。



販売実習では、神戸の方々に秋田の良さを知ってもらうために、農産物の説明文を書いたり、無農薬・無化学肥料で育てた特別栽培米のPRをしたりしました。その結果当日は、想像以上に沢山の物が売れて、驚きました。そして、帰り際に「ありがとう。」や「頑張っただね。」と暖かい言葉をかけていただき、人々の優しさに感動しました。自主研修では、自分たちで計画を立て、緊張しながらも京都の町を歩きました。行く先々で秋田とは違う文化や景色に圧倒され、まだまだ知らないことが沢山あると思います。道に迷ったりわからないことがあったりして、

自分で自分の可能性を広げたいと思いました。道に迷ったりわからないことがあったりしたときは、私たちが声をかけ、地域の方々に助けをいただきました。自主研修を通して、私たちは積極性や計画性が足りないかと気付かされました。また、後輩もできたことで、来年は自分たちが最上級生になるのだという自覚が生まれ、もう一度気を引き締めなければならないと心に誓いました。

そして私たちは三年生になりました。最後の球技大会では、一人一人が優勝を目指し、クラスのスリムも高まってきました。大会当日はどの種目も全力で楽しみなが取り組み、総合優勝を達成することができました。球技大会で私たちは、皆で協力し、一つの目標に向かって物事を成し遂げることが大切さを学びました。

その他の楽しい行事も次々と終わり、それぞれが自分の進路目標を決め、試験に向けての面接練習などで忙しい日々が続くようになりました。思うようにいかず暗闇の中をずつとさまよっている感覚になり、辛い日も沢山ありました。そんなときでもくじけずに何度も練習する級友の姿を見て、自分も頑張らなければならないと思いました。お互い切磋琢磨してきました。

また、先生方も最後まで丁寧に指導してくださいました。私たちがこうして成長できたのは、自分の存在があったから。困ったときや問題を抱えているとき、一緒に悩んだり、自分の力で解決できるような、的確なアドバイスを与えてくださっていました。間違った方向に進みそうなときは厳しく叱ってくださいました。授業で分からないところは優しく教えていただきました。どんなときでも先生方は私たちのためにご指導くださいました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、身近なところで三年間支えてくれた一番の理解者でもある家族。これまで数えきれないほどの迷惑をかけてきました。意見が対立し、分かり合えないときもありませんでした。そのようなときでも私たちの味方であり続け、そして支えてくれました。今まで素直になれず伝えられなかった感謝の気持ちを、この場を借りて伝えます。本当にありがとうございます。

この三年間は本当にあつという間でした。共に笑い、支え合ひ、様々な感情を共有してきた友人のおかげで、毎日が楽しく、沢山の思い出を作ることができ、本当に幸せだと思えます。そして在校生の皆さんに伝えたいことがあります。私たちがこの学び舎を去ることになります。これが、これまで太田分校で過ごして得た経験があれば、在校生やこの先入学してくる後輩達に、学校の伝統をきつと絶やさないでいけると思います。私たちに以上に皆さんが活躍し、太田分校をより発展させていくことを卒業生として期待しています。頑張ってください。

今日あの正門を出れば、これまであたりまえだと思っていた多くのことを経験できなくなる。今日あの日にはまだ信じられませんが、みんなと笑いながら話した休み時間。板書に必死で追いついていた授業時間。水田に漂うほのかな草の香り。全校生徒が一つになってお客さんの心をふるわせた、全校民謡での唄や太鼓の響き。そして、この制服に袖を通す日。寂しさはありますが、私たちがそれぞれの道を歩く途中、挫折や困難を味わう時、これらは前を向いて進むための支えとなってくれることでしょう。

太田分校がこれからも素晴らしい歴史を刻んでいかれますことをお祈りして、答辞と致します。

令和二年三月三日

卒業生代表 浅利 蓮



小林校長先生の式辞



飛躍を誓い固い握手



みんなで歌う最後の校歌



今日の記念に鉢花をひとつ



涙をこらえながらの答辞



これまでの思い出がよぎって...



退場と共に訪れる別れに...



もうお別れなんだ...



最後のH/Rで三年部の先生方を囲んで卒業生が歌のサプライズ(反則技です)



秋 卒業生代表